

Sow the Seeds of Love



慈愛の種を
播きましょう

2002-2003年度 国際ロータリーRIテーマ

RIテーマ

Weekly Report



クラブ会長テーマ

和楽、そして慈愛の種を播こう!

2002-12-11 第586回例会 NO.13-22 2002-12-18 発行

◎司会 SAA委員会 澄川 昇

◎点鐘 会長 小坂 一郎

◎ロータリーソング「四つのテスト」
ソングリーダー 菊池 敏

◎お客様紹介 会長 小坂 一郎
・東京都立多摩養護学校校長 市川 健一 様
・岡山西南RC 椎原 裕二 様

◎会務報告 会長 小坂 一郎

《第11回理事会（臨時）での決定事項》

- ・福島達也会員の退会届を受理、退会が承認されました。
- ・特別事業の今後のスケジュールおよび概要が提示されこれに従って推進することを決定いたしました。

《新会員候補者・入江玄耿（もとあき）氏について》

前回例会で新会員候補者として発表後、所定の1週間以内に異議申し立てがなかったため、入会資格を認められました。よって、推薦者の大松会員、杉田会員に同氏の入会推進をお願いいたします。

◎幹事報告 幹事 平野 行廣

- ・下半期の予定表を配布しました。例会振替、休会等にご注意頂き、早めのご予定をお願い致します。（活動計画書の18頁と差し替えをお願いします。）
- ・クリスマス出席家族名簿を回覧します。ご出席くださる家族に○、又はお名前をご記入下さい
- ・東京五反田、東京狛江RCより例会変更が来ております。
- ・「国際ロータリー100周年推進キット」を回覧いたします。

【委員会報告】

◎出席報告 出席委員会 加藤喜三郎
・会員総数 42名

- ・出席義務者数 41名（出席免除者2名）
- ・出席者数 34名
- ・欠席者数 8名（事前MU0名）
- ・出席率 80.49%
- ・欠席者：阿部 華歌、桧垣 昭、伊藤 英也、小泉 博、宮本 誠、杉野志保子、高野 範城、由井 眞司

・補填MU：阿部 華歌 12/10 東京多摩RC

11/27 最終訂正出席率 76.19%

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会 北村 幸彦

- 小坂 一郎 市川先生、本日は宜しくお願ひします。
- 平野 行廣 市川様、卓話宜しくお願ひします。
- 津守 弘範 市川さん、ようこそ。卓話楽しみにしています。
- 大松 誠二 市川校長、卓話宜しくお願ひします。
- 藤原 正範 しばらくお休みしておりましたので、お詫びです。
- 海野 榮一 えらい雪でしたね・・・
- 伊澤ケイ子 米山、もう一息ご協力お願ひします。しつこくてすみません。
- 小林 正 雪が残っています。転んで怪我をしないようにしましょう。
- 北村 幸彦 長野は大雪で大変です。スキー場はニコニコ、ゴルフ場はシクシクです。

本日の合計¥12,000（累計¥516,250）

◎その他の報告

・特別事業実行委員会 委員長 高木 淳光

本年度RIテーマ「慈愛の種を播きましょう」に沿って、地域におけるボランティア体験談を通じて青少年のボランティア活動への関心を高める事を目的とする特別事業を3月20日開催



東京多摩グリーンロータリークラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491
E-mail tamagr@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階
【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30
【会長】小坂一郎 【幹事】平野行廣 【委員長】藤原正範 【副委員長】杉野志保子
【委員】阿部華歌・赤尾恭雄・藤本吉文・小林正・関岡俊二・吉沢洋景・正房正孝

へ向けて鋭意準備中であり、いずれ詳細を発表する段階では広く全会員ご協力をお願いすることになりますのでよろしくお願い致します。

・ゴルフ同好会

会長 加藤喜三郎

国際ソロブチミスト稲城から参加要請のあるチャリティーゴルフ大会への多数参加を目的に、来春の当クラブスクラッチ会を兼ねて参加したいと考えます。追ってご案内いたします。

◎卓話

『私とボランティア』（要約）

都立多摩養護学校校長 市川 健一 様



私の 30 年にわたる教員生活の中で特に記憶に残っているのは、中学校の中にある知的障害児対象の設置学級を担任したことであり、それをきっかけに普通学級と合わせて教育のあり方がようやく見えてきたことです。

私とボランティアの関係ですが、果たして「慈愛の種を播きましよう」と言う R I テーマと合致するかどうかわかりません。私は 51 年からボランティアにかかわっておりますが、最初は決してボランティアではなかったのです。

町田市が夏休みに障害児・者を対象にプール教室をやった時に私の教え子たちも参加しましたが、それはたった 2 日だけの催しでした。その時、親御さんたちから出たのは



このような機会を年間を通して設けて欲しいとの切なる願いでした。このことはその後の保護者会でも強く要望されました。普通学級の生徒に比べ決して体力の劣らない障害児たちに部活の場が無いのはどうしてか、是非ともやって欲しいとの強い要望に押されて関わったのがそもそもボランティアのきっかけでした。

ボランティアという言葉については、いまだに自分の中で明確な解釈があるわけではありませんが、自分の本文である仕事以外の活動で、それが無報酬であることでボランティアなのかなとの一応の理解はしています。し

かし、それが真実のボランティアかとなるとまだまだ疑問点があります。

私が今現在考えられるのは、障害児・者と内面的に共感できお互いに理解し合えることがボランティアの究極であり、それが自分自身にとっても心の豊かさや喜びが得られることに繋がるのではないかと考えております。言葉で自分の感情を表現できない子供達は体のすべてを使って感情を表現しますので、それを受け止めるにはこちらも五感のすべてを働かせてその心を受け止めることが必要になります。心と心が通じ合えるためには、先ず彼等の生活を理解しそれに同化しなければなりません。

ボランティアの究極は、この世の中からボランティアという言葉が消える時だと考えております。

◎点鐘

会長 小坂 一郎

<ポール・ハリスの言葉>

ロータリーは病める人に言います。「あなたのベッドを片付け、歩きましょう」。ロータリーは数十万の人の生命を延ばしました。ロータリーは健康と幸福に役立ちます。

ロータリーは簡素で、うそいつわりなく、真実です。ロータリーはあざむいたり、うぬぼれることを嫌います。長所を過剰に評価される危険を犯すより、過小評価を選びます。



多摩センターのイルミネーション

(今週の担当 赤尾 恭雄)